

第2回日露投資フォーラムにおける関根副知事発言要旨
分科会2「ロシアの地域戦略：外資にとっての新たな可能性」

平成19年2月28日（水）15:25～16:50
経団連会館 14階 経団連ホール
（東京都千代田区大手町）

ただ今ご紹介いただきました新潟県副知事の関根です。

この度は「第2回日露投資フォーラム」にお招きの上、発表の機会をいただき、主催者である経済産業省、ロシア経済発展貿易省、ロシアNIS貿易会に対し心から感謝申し上げます。

当県はロシア極東を始めとする北東アジア地域との交流を県の国際交流の柱として位置づけ、経済、教育、文化、学術等、様々な分野における交流の促進と協力関係の構築に取り組んできました。

とりわけロシア極東については、当県はハバロフスク、ウラジオストクと定期航空路で結ばれていることから、日ロ地域間交流の日本側の主要な玄関口の役割も果たしております。

さて、近年のロシア経済の順調な発展を背景として、ロシア極東においても所得水準の向上に伴い消費市場が拡大していることから、当県の企業や農産物生産者による市場参入に向けた取組が始まっております。

具体的には、当県の伝統的産業である金属洋食器の業界が、ロシア極東での見本市に継続的に出展しているほか、農業生産者により切り花や梨の販売も開始されており、ロシア極東地域の潜在的な購買力を確認しているところであります。

このように、ロシア市場に関心を持つ新潟県の企業が増えており、特に中小企業間の具体的な経済交流が進みつつあります。当県としても今後の地域ビジネスの一層の活性化を期待していますが、そのためにはロシア側におけるビジネス環境の整備、特に通関や税制度の安定的運用も重要と考えており、連邦政府、地方政府の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

ロシア極東との経済交流活性化のもう一つの課題は物流の円滑化です。新潟港は日本海側唯一の「中核国際港湾」であり、2006年のコンテナ取扱量は16万TEU(163,898TEU)で、日本海側最大の貨物取扱量を誇ります。

新潟港には釜山航路、中国航路等の外貿定期コンテナ航路が就航しておりますが、残念ながらロシア極東との定期コンテナ航路がありません。

現在、日本、ロシア、中国、韓国の4カ国関係者により新潟港 - ロシア・トロイツァ港 - 韓国・束草港を結ぶフェリー航路の開設事業が進められておりますが、先般、新潟で開催された「北東アジア経済発展国際会議」においても、この航路が、北東アジア地域の安定と経済発展に寄与する意義のある航路であることが確認されたところであります。

この航路に加え、新潟港からヴォストーチヌィ港への定期コンテナ航路が復活すれば、地域間の物流の活性化のみならず、シベリア・ランド・ブリッジの利用促進にもつながり、日口間の貿易拡大に大きな役割を果たすと考えます。

日本の自動車メーカーのロシア進出が話題となっておりますが、このことに象徴されるように現在日本の経済界全体がロシア経済に大きな関心を持っており、シベリア・ランド・ブリッジによる物流の円滑化が図られることにより、今後、幅広い産業分野で相互に利益ある交流が期待できると確信しています。

新潟県としては、今後ともここにお集まりの日口双方各界の皆様と連携・

協力しながら日口間の交流拡大に努めて参りたいので、皆様の御理解をお願いします。

ご清聴ありがとうございました。